

MIA

ANTHOLOGIA

YASUSHI

NATSUKI

目次

断片集	1
もう一度	1
やりたいこと	1
FP!	2
何度でも	2
決して	3
夢は	3
旅人	3
どうして	4
友だち	4
右の頬	5
暗い海	5
無関心	6
文才	6
才能	6
真実	7
告白	7
私小説	8
グッド・バイ	8
奥付	
奥付	10

断片集

私のアンソロジー

言葉の断片集

いつか本物の詞華集を訳したいと思いつつ

今は私の散文を並べてみようと思った

もう一度

いつか作家になりたい、そんな夢を持つあなた

NON ARRIVERDERCI

また会おうではなくて、永遠にさようなら

やりたいこと

本当にやりたいことは、今やろう

少なくとも、今はじめよう

目標に向かって進む、前向きじゃないか

FP!

ファイナンシャルプランナー、じゃない

ファイティングプロフェッサー

アマチュア格闘技やってる大学の教員

いつかそう呼ばれたいと思っていた私

欲をいえば、アマチュア総合格闘技、やっている私になりたい

二兎を追うもの、一兎も得ず

でも、一途に生きるのも、いいじゃないか

何度でも

たとえ何度でも、立ち上がる

それもまた、人生

決して

決して信じない

そう思う時に限って、あなたを信じたい私があります

夢は

叶わないから夢なのかもしれない

でも、叶えることも人生の醍醐味

旅人

生ける者 遂には死ぬるものにあれば この世なる間は楽しくをあらな

と歌った旅人は、最高の人生の旅人であり、詩人であると思う

どうして

どうしてと尋ねるあなたを、私は信用しない

納得がいかないの裏返しが、どうして

では、私にどうしてほしいのですか

友だち

本当に友と言える人は、片手で数えるしかない

そんなあなたは、私を信じているか？

私は、信じている

友達が100人いる、そんなあなた

でも、あなたは私にとって親友か

私はあなたにとって友だちか

問いかけてみたい、心のなかで

右の頬

右の頬を打たれたら、左の頬を

ではなくて、右の拳で打ち返す

殴らないと殴られる

はじめて拳闘をならった私の教訓

拳を止めるか、拳を前に出すかの違いだ

暗い海

冬の日本海は暗い海

雪に覆われた海岸で一人寂しく歩いた私

あなたを待ちながら

人生はすれ違い

無関心

愛情の反対は、憎悪ではなく、無関心

去る者は日々に疎し

人間は、生き難い生き物だ

文才

文才がない、そう師匠から言われたあなた

私もそう思う

確かにあなたはアマチュア作家だ

でも、それ以上ではない、それ以下でもない

それが、現実

才能

才能がないのに書き続ける

それがあなたの才能

真実

真実は、常に厳しい

だから、人はヴェールをかぶせる

でも、それを剥ぐのが詩の役目だと思う

告白

それって告白？

そう尋ねたあなた

そうかもしれない

でも、それは愛の告白、ではない

別れの告白

私小説

私小説しか書けないあなたに、さようなら

フェードアウトしたい、わたし

小説よりは、あなたの方が好き

本当を言うと

小説は嫌い、あなたも、小説ほどではないにしろ、むしろもう関わりたくない

それが、本音

グッド・バイ

God Bye!

すてきな言葉だ

神のお側に会うまで、もうあなたとは会わない

私は神を信じない

でも、永遠にさようなら

奥付

奥付

MIA ANTHOLOGIA

../../../../book/97083

著者：夏木康志

著者プロフィール：../../../../users/ynatsuki/profile

感想はこちらのコメントへ

../../../../book/97083

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97083>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

MIA ANTHOLOGIA

著 夏木康志

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
